

老舗製麺所のインバウンド対策や海外進出を伴走支援でサポート

課題

頭打ちの地元消費 インバウンドの販路拡大を

岩手県最北に位置する軽米町の主要商店街に店舗・工場を構える古館製麺所は、1909年（明治42年）の創業、3代続く老舗製麺所だ。冬は零下15度を下回る厳寒、夏は「やませ」と呼ばれる冷風にさらされる自然環境のなかで育まれたヒエやソバは非常に良質で、古くから蕎麦どころとして知られていた。

かつては町内に10軒以上の製麺所があったが、現在営業を続けているのは同製麺所のみ。地元の原料にこだわり、地元産のさまざまな雑穀を用いて、昔ながらの製法、自然乾燥で、添加物に頼らない安心安全な麺づくりを行っている。

しかしながら、地域の過疎化や高齢化によって地元個人客、町内スーパー、飲食店への販売は年々落ち込み、改善は見込めない。一方で、健康志向・安全志向の高まりとともに、物産展への出店や、商談会への参加、コンクールでの受賞などで知名度が上がったことで、ネットショップの販売は順調に伸び、首都圏や関西などの物産展での売り上げも増加した。さらに3年前から香港、2019年から台湾に店舗をもつスーパーとの取引を開始したところ、コンスタントに売り上げが伸びただけでなく、アジア圏からのインバウンド客の来店も目立って増えてきた。

そこで、インバウンド対応と国内外への販路拡大を進めるため、多言語対応のホームページやパンフレットを整備したいと考えた。

支援

多言語ホームページやリーフレットを制作

海外進出の足掛かりとして、同社は軽米町商工会の支援のもと、2018年6月、台北市で開催された台湾最大規模の食品産業展示会「FOOD TAIPEI 2018」で日本食品の販売事情を視察したほか、現地企業との商談会に参加し、新規取引先の開拓を行った。

続いて小規模事業者持続化補助金を活用してホームページの多言語化と、外国人客向けのリーフレットに着手。ホームページは英語と中国語（繁体字）対応に改修を行ったところ、大幅なアクセスの伸びを記録した。リーフレットは、英語と中国語による4種類のリーフレットを作成し、外国人旅行者



台湾・台中市の彰化市裕毛屋で開催された「岩手県物産展」の様子

が多く訪れる銀座のアンテナショップや日本橋高島屋などの商品取り扱い店舗で配布。外国人客の購買率の向上につなげることができた。

その後、出展した台湾・台中市でのスーパーの物産展では、調理方法やおいしい食べ方の実演販売を行い、好評を得た。TwitterやフェイスブックなどのSNSを活用して日本の麺文化の紹介や地域の料理方法の紹介なども行い、自店のファンづくりを継続的に行っている。

花巻国際空港の台湾と結ぶ国際線新規定期便の就航も始まった。インバウンド対応体制を整えたことにより、外国人向け商品を探すバイヤーへのアピールも強化していく。

支援の経過

期間	支援内容
2018年10月	持続化補助金の実行支援（HP改修）
11月	持続化補助金の実行支援（パンフレット作成）

会社概要

会社名：古館製麺所
住所：岩手県九戸郡軽米町軽米8-139
電話番号：0195-46-2301
URL：<http://hattouya.com/>
代表者名：古館拓
創業年：1909年（明治42年）
従業員数：5名
商工会名・担当者名：軽米町商工会・下坪秀司